

公益社団法人 伊勢市観光協会

令和2年度 事業報告書

公益社団法人伊勢市観光協会 令和2年度事業報告

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された年度となりました。年度当初の4月には感染拡大の第1波が押し寄せ、政府が全国に緊急事態宣言を発出するに至り、日本経済に大きなダメージを与えることになりました。緊急事態宣言明けの6月からは、少しずつ観光地に賑わいが戻りつつありましたが、7月末に政府観光キャンペーン「Goto キャンペーン」が開始され、収束に向かうと思われた8月に第2波が、年が明けた1月には年末年始の会食や移動が要因とされる第3波が発生する事態となりました。

特に伊勢観光の特徴である団体旅行に関しては、「3密」を避けるため観光バス及び公共交通機関の利用控えが起こり、壊滅的な被害を受けました。しかしながら学生団体(修学旅行、遠足等)については、近県および県内の学校が、本来の目的地から比較的感染者が少なかった伊勢志摩へ変更するケースが相次ぎ、好調に推移しました。

当会事業への影響としましては、二見浦海水浴場の閉鎖、越年行事の中止縮小、日本観光祈願祭の縮小、東京御師会議の中止、観光PRの中止など、集会集客を伴うイベントや、県外移動を伴う事業が影響を受けました。また、来訪者激減により、レンタサイクル事業と手荷物事業に関しましても大幅減収という結果となりました。

伊勢市から委託を受けた、新型コロナウイルス対策事業におきましては、この状況下における情報発信、ECサイトの構築、観光地感染防止対策、市内関連事業所支援、年末年始混雑緩和等の事業を実施しました。特に市内事業所支援のクラウドファンディング「食泊みらいチケット」につきましては、想定を遥かに上回る支援結果となりました。また、年末年始混雑緩和事業「平日伊勢まいり」については、取り組みの結果初詣の平日への分散化が出来たことから、今後平常時の伊勢での取り組みにかかる成果の見込める参考事例となりました。

その他の事業に関しましては、この状況下において実施可能であるものは実施し、縮小や内容変更などで対応できるものも実施しました。青年部事業に関しましても、中止縮小が相次ぐことになりました。

収益事業の物品販売事業におきましては、伊勢市ふるさと応援寄付金の返礼品取扱が好調であったことから、取扱額が大幅に増加する結果となりました。増加する返礼品仕入費用につきましては、手数料の見直しやシステムの再構築などと併せて伊勢市と協議を続け、次年度に改善がなされることになりました。

上記のように当会は当地の観光協会として行政と協働を行い、市内事業者の支援、情報発信等を実施してまいりました。本年度も先行きの見えない状況の下で年度を終えることになりましたが、地域の観光協会として地域の観光業を支え、終息を見据えた事業を実施していく所存です。

なお、具体的な事業内容は次ページより。

＜公益目的事業—旅客誘致事業＞※見出し横の事業費は経常費用を記載しております

1 広報宣伝事業(情報発信部会、青年部、事務局)

① インターネットによる情報の発信(IT 委員会、事務局) 6,383 千円

新型コロナウイルス感染拡大により、インターネットの情報戦略がこの自粛明け後の観光地のスタートダッシュの鍵なるという認識から、当会のホームページにおきましても発信力の強化を図るために「伊勢市及び伊勢市観光協会共同観光ホームページ」の刷新を図りました。引き続きスマートフォンに軸を置きながら、「現地」ならではの情報発信をめざし、主に写真と掲載情報のアップデートを行いました。また、この状況下で知りたい情報は「観光地がどのような対策をとっているか」が日観振のアンケートでトップとなっていることも鑑み、伊勢市が先進的に取り組んだ、「伊勢クリーン大作戦」や「空きです伊勢」などの新型コロナウイルス感染拡大防止対策事業等についても当会ホームページのトップからアクセスしやすくしています。

新ホームページ開始前である旧ページでの令和2年度は、伊勢からの応援メッセージ動画を掲載するなどしました。しかし、ホームページアクセス(ページビュー)数は、702,263件(前年度1,165,789件)、1日平均1,924件(前年度3,193件)と約40%の減少となりました。減少の要因としては、新型コロナウイルス感染拡大により旅行需要が低下したことが大きな原因と考えております。ツイッターのフォロワー数は3650人(昨年度2,225人、前年比+1,425人)で増加となりました。

SNS フォロワー数

	Facebook	Twitter	Instagram	合計
令和2年度	2,581	3,650	1,019	7,250
令和元年度	2,344	2,225	なし	4,569
増減	237	1,425	1,019	2,681
対前年比	110%	164%	-	159%

※Instagramは令和2年度開設

情報発信事業として、観光PRのキャラバンを予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、東京大神宮、たまプラーザテラスは中止となりました。札幌に関しては北海道キヨスクと連携し、現地に人員を派遣しない新たなスタイルでのイベントを開催しました。

② 紙媒体による情報発信(パンフレット/リーフレット) 2,728 千円

紙媒体として情報発信を担うパンフレット/リーフレットにおいては、行政と協働し観光パンフレット及び地図を作成し、観光案内所等で配布をしています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、来訪者数の減少が見込まれ、在庫で対応できる物の印刷を取りやめ、需要の高いランチマップと二見街歩きマップを刷新しました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、来訪者数の減少が見込まれ、増刷の必要がなくなったため、伊勢市と既存パンフレットの改廃を行いました。当初予定の印刷を在庫で対応できる物の印刷を取りやめ、需要の高いグルメマップを着地型での活用率を高めるためランチマップに特化し、青年作成の伊勢の夜と対で活用できるようにしました。とまた、2種類の二見の資料を1つに統一し、二見街歩きマップとして新たに作成しました。Map of Iseとポケナビは役目を終え、廃版となりました。

◇パンフレット及びリーフレット印刷について

No	事業パンフレット名	当初数量	最終数量	備考欄
1	ええじゃないかお伊勢さん	10,000	0	総合パンフ
2	新規日本語パンフレット	30,000	10,000	総合パンフ(概要)
3	新規外国語パンフレット	30,000	5,000 (英語のみ)	英語、仏語、繁体字、 簡体字、タイ語、 韓国語、各 5,000 部
4	市内 Map(てくてく)	150,000	0	基本地図
5	二見浦	15,000	0	二見リーフレット
6	二見まちあるき MAP(新規)	0	10,000	新規 MAP
7	グルメマップ	10,000	0	お食事マップ
8	ランチガイド(新規)	0	10,000	新規ランチガイド
9	Map Of Ise(廃版)	5,000	0	英語市内地図
10	ポケナビ(廃版)	5,000	0	ポケットリーフレット

③ 伊勢市観光大使及び伊勢市観光御師(御師委員会) 123 千円

首都圏等における情報発信を円滑且つ効果的に進めていく為に、協会は観光大使・観光御師制度を設けております。現在、下記の方々に委嘱をさせて頂いております。残念ながら本年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、御師会議並びに伊勢観光振興交流会は、中止となりました。

観光御師ネットワーク構築事業では、日本各地に伊勢との「繋ぎ役」を作り、伊勢とのネットワーク構築を目指しております。全国に観光御師に次ぐ人材を確保し、ネットワークを構築することを目的としております。本年度は昨年度実施できなかった北海道札幌市においての最初のネットワーク組織設立を予定しておりましたが、残念ながらコロナウイルス感染拡大により中止となりました。今後は、新型コロナウイルスの終息を待って事業を再開します。

◇伊勢観光大使並びに観光御師名簿

	所 属	役 職	氏 名
観 光 大 使		アスリート	野口 みずき 氏
	ファンタシウム	タレント	楠田 枝里子 氏
	トゥーフロント	女優	夏樹 陽子 氏
観 光 御 師	株式会社ジェイティービー (元会長・社長)	相談役	舩山 龍二 氏
	株式会社共立メンテナンス (岡三興業株式会社 元代表取締役社長)	リゾート事業部 特別顧問	松本 久雄 氏
	株式会社びゅうトラベルサービス (日本観光振興協会 元理事長)	顧問	見並 陽一 氏
	人流・観光研究所 株式会社東麻布企画 (元加賀市長)	所長 社長	寺前 秀一 氏
	三井住友信託銀行株式会社	名誉顧問	村上 仁志 氏
	東勢会/瑞泉古酒の会 (セコム株式会社 元専務取締役)	会長	佐々木 信行 氏
	(澁澤倉庫株式会社 元社長・会長)		北村 敏夫 氏
東海旅客鉄道株式会社	特別顧問	松本 正之 氏	

④ 外国人観光客誘致事業(情報発信部会、インバウンド委員会、青年部) 18千円

新型コロナウイルス感染症の拡大が進む中、現地に出向いてのインバウンド誘客および情報発信については事業実施を断念することになりました。そのような状況の中、シンガポールにて開催された「伊勢志摩パールジュエリーグランプリ 2020」に、パンフレット送付及び映像提供を行い、伊勢の情報発信を行いました。また、伊勢志摩観光コンベンション機構で開かれた、インターネット会議システムを介したオーストラリア旅行会社との商談会等にも出席し、新型コロナウイルス感染拡大の状況

下において実施可能な事業を推進しました。

⑤ 観光 PR 事業(情報発信部会、青年部、事務局) 511千円

各地へ出向き伊勢の観光情報の発信と観光物産展による収益事業と情報発信を行いました。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の見地から、現地を訪れる観光 PR キャラバンは中止となりましたが、担当者が現地に行かずにリモート等で打ち合わせから出店までを行うという新たなスタイルで物産展を開催しました。概要につきましては、下記の様になっております。

<札幌伊勢フェア>

・期間:令和3年3月25日(木) ~ 令和3年3月28日(日)

- ・売り上げ: 4,497,328 円(税込み)
- ・場所: 北海道札幌市北区北 6 条西 4 丁目 1-1 JR 札幌駅 北海道四季彩館
- ・連携事業者: 北海道キヨスク株式会社、株式会社赤福

⑥ 日本観光祈願祭及び観光交流伊勢会議

(観光交流伊勢会議実行委員会) 40 千円

第 53 回日本観光祈願祭を 10 月 2 日に、役員 10 名の参加外宮にて開催しました。観光産業の健全な発展と旅行の安全を神宮へ祈願しました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から役員のみでの開催とし、感染拡大の早期終息も併せて祈願しました。

なお、観光交流伊勢会議は中止となりました。

2 誘致接遇事業

① 観光案内所事業(事務局) 32,984 千円

外宮前、宇治山田駅、伊勢市駅、宇治浦田及び二見浦観光案内所について

案内所実績表

	外宮前	宇治山田駅	伊勢市駅	宇治浦田※	二見浦	合計
令和 2 年度 (うち外国人)	28,993 人 (90 人)	6,530 人 (14 人)	29,231 人 (172 人)	11,320 人 (15 人)	10,735 人 (54 人)	88,809 人 (345 人)
令和元年度 (うち外国人)	66,523 人 (1,928 人)	16,199 人 (526 人)	75,861 人 (4121 人)	35,128 人 (479 人)	18,629 人 (1038 人)	212,340 人 (8,092 人)
対前年比	43.58%	40.31%	38.53%	32.22%	57.62%	41.82%
(うち外国人)	4.66%	2.66%	4.17%	3.13%	5.20%	4.26%

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言や県境をまたいだ移動の制限など、旅行ができない状態が長く続いたことから、来訪者数が激減する結果となりました。全国緊急事態宣言が出た 4 月末から 5 月末にかけては観光案内所を閉鎖して対応を行いました。

外国人観光客に関しても-96%と激減しており、これも世界規模でのパンデミックが大きく影響しています。

なお、神宮参拝者数と案内数の対比から、既存の案内形態による観光客の案内需要は低下しています。インターネットの普及がその一因と考えられますが、新型コロナウイルス感染拡大の状況だからこそ見えた対面案内の限界と優位性を鑑み、DXの推進を見据えた「伊勢に必要な公益の案内機能」を伊勢市と協議し、観光協会が事業受託を継続できるように先んじて取り組んでいく予定です。

案内所案内数と神宮参拝者数の割合

	総計	神宮	割合
H27年度	262,438	8,382	3.1%
H28年度	314,199	8,739	3.6%
H29年度	318,553	8,798	3.6%
H30年度	287,224	8,505	3.4%
H31年度 R1年度	212,340	9,729	2.2%
R2年度	86,809	5,538	1.6%

※神宮は単位千

② 手荷物事業(事務局)4,710 千円

来勢されるお客様への更なる便宜を図るために伊勢市駅と宇治山田駅において手荷物事業を実施しました。手荷物事業に付帯して伊勢市駅手荷物預り所建屋の管理(多目的トイレ、授乳室、休憩所など)、レンタサイクルの貸出、簡単な観光案内などを行っております。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、特に公共交通機関に顕著に表れており、当事業の主な対象者である電車利用での来訪者が激減することになりました。当事業所に置きましても、時短営業や緊急事態宣言下の閉所(5月～6月初旬)などの対応をとりました。

伊勢市駅では総取扱い金額で 568 万円(前年度 3,002 万円)、うち手数料収益 59 万円(前年度 318 万円)、宇治山田駅では総取扱い金額で 67 万円(前年度 338 万円)、うち手数料収益 7 万円(前年度 36 万円)と大幅な減収となりました。

外宮前観光案内所におきましても、外宮参拝者への便宜を図るために、手荷物の一時預かりを実施しております。実績に関しては、当所も同じく新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、減少となりました。収入額で 63 万円(前年度 177 万円)となりました。

単位:個

◇手荷物預かり実績

	伊勢市駅 手荷物預かり所		宇治山田駅 手荷物預かり所		外宮前 観光案内所	合計
	預かり	配送	預かり	配送	預かりのみ	
令和2年度	4,879	3,737	542	472	2,110	11,740
令和元年度	30,420	16,976	3,267	2,166	5,923	58,752
増減	△25,541	△13,239	△ 2,725	△ 1,694	△3,813	△47,012
対前年比	16.03%	22.01%	16.59%	21.79%	35.6%	19.98%

③ 「お伊勢さん観光ガイドの会」 156 千円

(お伊勢さん観光ガイドの会運営委員会、おもてなし行事部)

外宮前観光案内所において、神宮のガイド「お伊勢さん観光ガイドの会」が常駐し、日々観光客のご案内に務めています。現在の会員数は 57 名。

本年度のガイド件数は 978 件(前年度 3,712 件)で 4,380 人(前年度、11,774 人)の観光客を案内しました。件数ベースで約 26%と激減しております。これは昨年度末からの新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた結果だと考えます。

	案内件数	案内人数	件数 対前年比
R02	978	4,380	26%
R01	3,712	11,818	99%
H30	3,763	11,774	93%
H29	4,012	12,890	116%

今年度は新型コロナウイルス対策として、フェイスガードや非接触型電子体温計の導入をおこないました。ガイドの安全とお客様へのおもてなしの両立を図りました。しかしながら、ガイドには高齢者も多いことから、状況を見ながらガイド活動の休止も行いました。

※注1 その他誘客事業費計 2,601 千円

以後の説明で「※その他誘客事業に含む」とある場合は上記事業費に含まれております

④ レンタルサイクル事業(事務局、青年部) 578 千円

55 台の自転車(外宮前 10 台、宇治山田駅 5 台、伊勢市駅手荷物預り所 25 台、伊勢シーパラダイス 10 台、パールピアホテル 5 台、オレンジカフェウッド 15 台)を維持管理し、運用しています。(伊勢シーパラダイス、パールピアホテル及びオレンジカフェウッドは委託)オレンジカフェウッドにはロングライドが可能な E-BIKE(電動アシスト付スポーツ自転車)を配備しました。

本年度貸出件数は 2,352 台(外宮前案内所 931 台、宇治山田駅案内所 117 台、伊勢市駅 1,163 台)となりました。前年度 3,661 台から 35.7%の減少となりました。(レンタサイクル収益計 2,627,905 円)。更なる利用率向上を図るため、伊勢市と連携し旅行商品(JR ずらし旅等)へのコンテンツ提供を行いました。

【レンタサイクル利用者数表】

	外宮前 観光案内所	宇治山田駅 観光案内所	伊勢市駅 手荷物預り所	その他	計
R2 年度合計	931	117	1,163	141	2,352
R1 年度合計	1,339	112	2,045	165	3,661
増減	△408	5	△882	△24	△1309
前年度対比	69.53%	104.46%	56.87%	85.45%	64.24%

⑤ 御遷宮対策事業(おもてなし行事部、事務局) ※その他誘客事業に含む

御遷宮委員会の一員として、次回の神宮式年遷宮へ向けて様々な協議を進めております。令和2度も次世代継承を基軸に活動をし、広報誌の発行や伝統行事の継承を軸に民俗行事の遂行への協力をしました。

併せて次年度に迎える第50回初穂曳祈念事業についても、事業推進の中核メンバーとして参画をしました。

⑥ 公益社団法人伊勢志摩観光コンベンションへ機構への協力

※その他誘客事業に含む

- ・伊勢志摩学生団体誘致委員会(事務局)
伊勢志摩地区への学生団体旅行の誘致を行なう委員会へ参画し、誘客の企画やPR、伊勢市での歓迎行事等に協力しました。
- ・伊勢志摩フィルムコミッション(事務局)
伊勢志摩地区でのテレビ取材や映画撮影等の誘致、撮影協力を行なう組織に参画し、情報の共有、撮影への協力等を行ないました。

⑦ 伊勢商工会議所及び伊勢市との協力事業 ※その他誘客事業に含む

- ・中心市街地活性化協議会への参画
- ・伊勢まちづくり会社への参画
- ・「常若婚」への協力
- ・DMO への参画
- ・参宮木札配布への協力
- ・その他

⑧ 各種大会の接遇(事務局) ※その他誘客事業に含む

- 下記の各種大会に歓迎看板または四角塔の掲示を行った。
- ・神宮奉納社会人野球大会
 - ・伊勢神宮新穀感謝祭
 - ・東京オリンピック聖火リレー

3 観光イベント事業

① 春まつり(おもてなし行事部) 0千円

新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止となりました。

② 第16回観光交流伊勢会議及び第53回日本観光祈願祭
(観光交流伊勢会議実行委員会)

※詳しい内容は、1 広報宣伝事業 ⑦を参照してください。

③ 二見浦海水浴場 浜開き式(おもてなし行事部) ※その他誘客事業に含む
新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止となりました。

④ 第68回伊勢神宮奉納全国花火大会 ※その他誘客事業に含む
(おもてなし行事部)

新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止となりました。

⑤ 冬至の奉納(おもてなし行事部) 19千円

雨天の中、12月21日(月)に、柚子と南瓜を役員のみで神宮へ奉納しました。

- ⑥ 参宮木札の配布(外宮前観光案内所、事務局) ※その他誘客事業に含む
国の補助事業「地方の元気再生事業」の一部として始まり、今年度で 12 年目となる参宮木札事業に協力しました。外宮前案内所前にて配布の協力をしました。
- ⑦ 年越餅つき行事・年越餅の贈呈(おもてなし行事部) 10 千円
新型コロナウイルス感染拡大を受け、行事の開催は中止となったが、役員で餅の外宮に餅の奉納を行った。
- ⑧ 「伊勢楽市」事業への協力(事務局、青年部)
新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止となりました。
- ⑨ おもてなし講習会(事務局、おもてなし行事部) 0 千円
新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止となりました。
- ⑩ 研修事業(親会、青年部) ※その他誘客事業に含む
新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止となりました。

4 協会が協力した諸行事 ※その他誘客事業に含む

本年度、下記行事に後援及び協賛した。

- ・倭姫宮秋の例大祭
- ・おかげ横丁夏まちまつり
- ・来る福招き猫まつり
- ・さるめ書道展
- ・おひなさまめぐり in 二見
- ・初穂曳
- ・伊勢神宮奉納書道展
- ・初午祭
- ・その他

5 市受託事業

① 観光案内所の運営

宇治山田駅構内案内所、伊勢市駅構内案内所、宇治浦田案内所、外宮前案内所、二見浦案内所において案内所員 10 名にて業務を行いました。二見浦案内所に関しては、二見旅館組合に委託しております。

※案内実績については「2 誘致接遇事業 ①観光案内所事業を参照

② 二見浦海水浴場 0 千円

新型コロナウイルス感染拡大を受け、開設は行いませんでした。

③ 伊勢市駅手荷物預り所運営

お客様の便宜を図り「手ぶら観光」を推進するために、伊勢市より受託運営をしております。

※詳細は、2 誘致接遇事業 ②手荷物事業を参照

6 新型コロナウイルス対策事業(伊勢市協働事業)

①かわりにお参り事業 35 千円

新型コロナウイルス感染拡大により、緊急事態宣言が発出され不要不急の移動が制限され旅行に出かけることが非常に難しい状況の中、全国の皆様の「思い」を代わりにお届けする事業を実施しました。集められた「思い」は当会会長により、松尾観音寺と二見興玉神社に届けさせて頂きました。

②コロナ関連情報発信・動画作成事業 104 千円

新型コロナウイルス感染拡大による、伊勢市内の情報や、国、三重県、伊勢市の情報にアクセスしやすくしました。併せて、Stay at Home で伊勢に帰れない人達に向けて、伊勢からの応援メッセージ動画を作成し公開をしました。

③観光地感染防止対策事業 9,125 千円

・熱中症対策事業

熱中症対策として、観光客に一時的に涼を取ってもらうためのミストファンを設置し、管理運営を行いました。

設置期間 令和2年8月19日(水) ~ 令和2年9月22日(火)

設置場所 外宮前観光案内所、伊勢市駅前広場

・伊勢クリーン大作戦

伊勢市内の主要観光目的地の沿道等に、誰にでも利用出来るクリーン設備(手指用消毒液設備)を観光者受入のためのおもてなしの一環として各事業所と連携し設置を行いました。

設置期間 令和2年10月28日 ~ 令和3年3月31日迄

※ 令和3年度事業継続中

設置台数 伊勢市内各所 62 か所設置

④年末年始混雑状況緩和事業

・平日伊勢まいり 26,714 千円

新型コロナウイルス感染予防対策として年末年始の混雑を緩和するため、平日にお参りいただくことを促進する事業「平日伊勢まいり」を実施しました。

1月中は、宇治駐車場の4時間無料化をメインとし、駐車券などの対象切符をお持ちの方に蘇民将来の木札ストラップをプレゼントしました。また、おかげ横丁で平日限定の太鼓イベントを実施しました。

2、3月は、平日の宿泊者に対し参宮木札の蘇民将来版をプレゼントすることをメインとし、平日来勢のインセンティブとしました。また、木札配布イベントを2回開催しました。

1月から3月1日は、平日来勢者に抽選カードを配布し、2000円程度の伊勢の産品が100名の方にあたるプレゼントキャンペーンを実施し、人気を博しました。

1月から3月にかけて、E-BIKEを活用した旅行商品を造成し販売するとともに、オレンジカフェウッドで旅行商品の購入者及びE-BIKEのレンタル者に、蘇民将来木札ストラップのプレゼントを行いました。

混雑緩和取組の結果については、伊勢市による駐車台数及び参拝者数の調査によると、1月の取組日の駐車台数は前年比88%のところ参拝者数は前年比29%であり、取組により平日に初詣を分散化することが出来ることが実証されました。

⑤市内周遊事業(伊勢市駅電動自転車) 1,993千円

密をさけた移動手段として注目されているレンタサイクルの機能を拡充するため、伊勢市駅手荷物預かり所に電動アシスト付自転車を導入し、管理運営及び旅行商品へのコンテンツ提供を行いました。

- ・導入施設 伊勢市駅手荷物預かり所
- ・導入台数 15台

⑥首都圏期間限定店舗設置事業 13,661千円

観光客が減少する中、首都圏で地域産品を販売し、伊勢市の観光PRを行うことにより、地域産品の販路拡大及び認知度向上に繋げるとともに、新型コロナウイルス終息後の誘客に繋げるために期間限定店舗「ISE SHOP」を開設しました。

- ・設置場所:神奈川県横浜市青葉区美しが丘1-1-2
たまプラーザテラス ゲートプラザ2階
- ・設置期間:令和3年2月9日(火)~3月28日(日)
- ・実績:売り上げ、来店数は下記のとおり
売り上げ 10,557,923円(税込み)
販売品数 14,061点
来店者数 約10,000人 (レジ通過人数6,990人の約1.5倍、現場スタッフ聞き取りによる概算)

⑦@伊勢アクション「食泊みらいチケット」事業

新型コロナウイルス感染拡大により、営業自粛や休業等により経済的打撃を受けている市内の飲食店・宿泊施設を応援するため、クラウドファンディングサービス等を利用したプレミアム付き応援券の発行を行い、経済の活性化を図ると同時に、全国へ伊勢市の魅力あるお店やお宿を紹介し、観光PRを行って観光振興につなげることを目的として実施しました。

クラウドファンディング運営サイト「CAMPFIRE」を使用し全国より支援金を募りました。ネット環境が利用できない窓口支援(ハガキ申し込み)も行いました。支援者には飲食コースは支援額に対して25%、宿泊コースは50%のプレミアム額乗せたチケットを返礼品と送付しました。

・実施期間

クラウドファンディング期間:令和2年6月10日(水)～令和2年7月10日(日)

窓口支援期間 :令和2年7月20日(月)～令和2年8月20日(木)

・支援額 76,510,000 円

・支援者数 3,965 人

⑧ おいな伊勢キャンペーン

三重県内において新型コロナウイルス感染者数が低く推移しており、県内の旅行需要を取り込み伊勢市の事業者を盛り上げるために、県内在住の方々にターゲットを絞った、「三重県民限定」の誘客キャンペーン(実施期間、令和2年6月20日～7月19日)を実施しました。会員事業所と宿泊事業所の協力により、宿泊の特別プランや飲食の特別サービスなどが、身分証で三重県在住が確認できれば受けられるものでした。

7 青年部活動 ※青年部総会資料より抜粋、事業費の記載のない物は「その他誘客事業」に含む

◇伊勢のまち発展委員会

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「研修視察」「インバウンド促進事業」「親睦家族会」「新年交流会」は自粛させていただきましたが、下記の事業報告の内容にある通り総務系の事業を中心に活動させていただきました。

◆青年部手帳の作成 5月100部作成。

◆青年部ホームページの管理 変更点を管理業者に連絡をし、更新作業を実施。

◆名簿の管理 新入会員の名簿の追加作業

◆名刺の作成 役員の名刺作成

◆ええじゃないか伊勢の作成(親会と共同) 親会用紙面、

青年部用紙面それぞれ600部作成し、郵送にて配布。

◆グループウェアの管理 エンジェルタッチの運用、リモート会議室 Zoomを導入。

- ◆ナイトタイムエコノミー推進事業 アソビシステム株式会社を中心に立ち上げるエンターテイメントプラットフォーム事業「CHANNEL_47」と連携し、MOSHIMOSHINIPPON内に特設ページを作成した。
- ◆インバウンド促進事業(親会と共同) 自粛のため、未実施。
- ◆研修視察 自粛のため、未実施。
- ◆親睦家族会 自粛のため、未実施。
- ◆新年交流会 自粛のため、未実施。
- ◆総会の運営 総会資料の作成、資料の配布手配を実施。

◇伊勢PR 委員会

当委員会は、伊勢市の観光情報発信、誘客に繋がる活動を行いました。

①観光PRキャラバン事業、②伊勢のファンクラブ事業、③ええじゃないか便事業、④レンタサイクルPR活動事業、⑤SNS 情報発信事業の5つの事業を通して、広く伊勢をPRするための活動をいたしました。

◆観光PRキャラバン

・今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため『たまプラーザテラス』『北海道観光PR』『東京大神宮観光PR』を自粛いたしました。

◆ファンクラブ事業 ・会員証の発行やファンクラブ通信の送付等を行い伊勢市のコアなファンを増やしてきましたが、多様化するWeb社会に対応するために事業を休止致しました。紙面発送等によるファンクラブ会員の方々との交流から当協会SNSアカウントを駆使した情報発信への移行する大きな決断の年になりました。

・ファンクラブ通信の発行(9月に休止案内の最終号を発行。)

・ファンクラブ HP の運用

◆ええじゃないか便事業 ・観光PRキャラバンやインターネット販売のコンセプトに合わせた伊勢市の物産品を集め 商品をラインアップいたしました。

◆レンタサイクルPR活動事業 レンタサイクル『伊勢MYりん』を利用したエコツーリズムに繋がるPR活動を行いました。

◆SNS 情報発信事業

・『伊勢フォトグランプリ2』の開催 伊勢市の情報発信拡大を目的として、伊勢市に訪れた観光客や地元民などプロ・アマ問わず 『Instagram』を通じて伊勢市内で撮影した画像を発信していただくことにより、伊勢市の魅力を様々な視点から多くの人に知っていただくきっかけとなるように開催いたしました。

当イベントのインスタグラム公式アカウント【@isephoto_grandprix】をフォローし、撮影した写真に、【#いせフォト2】のハッシュタグをつけて投稿していただきました。1,532名のフォロワー(参加者)に投稿いただいた約1,900枚の作品の中から、22枚の素敵な作品を選考し宿泊券と食事券を送り更なる誘客に繋げました。

・『伊勢フォトグランプリ』外国語版の開催 新型コロナウイルス感染拡大の影響で外国人観光客の来日が困難になったため、開催自粛致 しました。

◇ほないこ！まいりんくん実行委員会

伊勢市観光協会公式キャラクター「伊勢まいりんくん」を使用したイベント等への出演、それにともないグッズ等を作成し、配布・販売する。また、ボランティアスタッフの募集や地域の大学等と連携して観光 PR 活動を行う。

◆イベント出演・観光 PR 活動 ・新型コロナウイルス感染症の流行により、イベントや PR 活動が中止になったため、着ぐるみによる対外的な活動は1回でした。出演 12/19 イルミネーション冬のフェスティバル（シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢）

・SNS にて、ぬいぐるみを用いた投稿や、伊勢の情報のシェア等を行いました。

◆地域の大学等との連携・ボランティアスタッフの募集

・今年度は、皇學館大学CLL地域学習支援室と連携しての活動は休止となりました。

<収益目的事業—賃貸事業> 288 千円

・ 伊勢市駅前ビル 鉄筋 4 階建て ・ 風餐亭 1F 研修室

伊勢市駅前ビルを賃貸物件として運用、風餐亭1F 研修室は貸し会議室として運用しています。

<収益目的事業—物品販売事業> 104,408 千円

今年度は「伊勢乃国発ええじゃないか便」事業で培った EC サイト運営のノウハウを元に「新型コロナウイルス緊急支援サイト EC ショップ」を開設しました。観光客の減少により売り上げが低下した事業者の支援を目的とした事業展開を行った。購入者メリットの創出のために一定期間送料無料のキャンペーンを行いました。

伊勢市ふるさと応援寄附金事業に関しては返礼品の受付発送業務だけでなく、事業の PR、パンフレットの作成及び新たな返礼品の開拓業務等を行いました。令和 2 年度の実績として、寄付件数が約 6,000 件(前年 2,290 件)、寄附額が約4億 2000 万円(前年 96,355,691 円)となり、前年度実績を大きく上回りました。要因として「ふるなび」「楽天ふるさと納税」の2サイトを追加と、ステイホームによる巣ごもり需要で家庭内消費される、米、酒、肉等の返礼品が多く選ばれ寄附件数が増えたと思われます。

<収益目的事業—その他(会員互助事業)> 148 千円

①広報誌「ええじゃないか伊勢」の発行(情報発信部会、総務委員会、青年部) 情報発信部会及び青年部総務委員会の共同製作の会員広報誌として、第 37 号を 11 月 12 日に 600 部発行しました。

＜法人事業—中期政策検討部会＞ ※法人事業(会計)に含む

本部会では、協会運営に関する重要事項や、コンプライアンス対応を協議及び実施しております。本年度は引き続き収益改善にむけて、新事業の取り組みや既存収益事業の改善を図るとともに、各種規定の整備による職員の待遇改善を行いました。

＜＜令和2年度における、当会の決算状況について＞＞

令和2年度は冒頭でもご報告差し上げました通り、新型コロナウイルス感染症に大変な年度となりました。当会会計上におきましても、公益社団法人が満たすべき会計3基準、

- ①収支相償(公益目的事業に係る収入がその実施に要する適正な費用を償う額を超えてはいけない)
- ②公益目的事業比率(公益目的事業の費用が事業費・管理費の合計額の50%以上でなければならない)
- ③遊休財産額保有制限(具体的な用途の定まっていない財産の額は、1年分の公益目的事業費相当額を超えて保有できない)

につきまして本来であれば、3つ全てを満たさなければなりません。令和2年度におきましては、①収支相償において、公益事業が黒字となり剰余金が発生し、②公益目的事業比率が49.1%と基準の50%を下回ることになり、2つの基準を満たすことができませんでした。

公益事業が黒字決算となった要因としては、新型コロナウイルス感染拡大により公益事業に位置付けられる事業(協会100%負担と協会50%負担の事業)の実施が出来ず、本来使用する事業費を使用しなかった事と、伊勢市よりの新型コロナウイルス対策事業(伊勢市100%事業)を実施したことによる手数料の収入増が主なものです。この公益事業の剰余金につきましては、令和3年度事業において使用し解消を図ります。

公益目的事業比率に関しては、主な原因である物品販売事業(伊勢市ふるさと応援寄附金)が前年度の4倍まで急増し、仕入れ費用が計上されたことに起因しております。この返礼品仕入れ費用の問題に関しては、伊勢市と協議の上、令和3年度からは解消をすることとなっております。

※令和2年度収支決算に関しましては、別添「財務諸表」をご覧ください。